



5 グループ

テーマ『防災教育』



研究テーマ設定の背景

国際
A

防災教育をテーマにするのはどうだろう。災害多発国の日本では、大規模自然災害が頻繁に起きていて、南海トラフ巨大地震は最近とくに注目を浴びているから、子供も含めて誰もが考えるべきテーマだと思う。

栄養
C

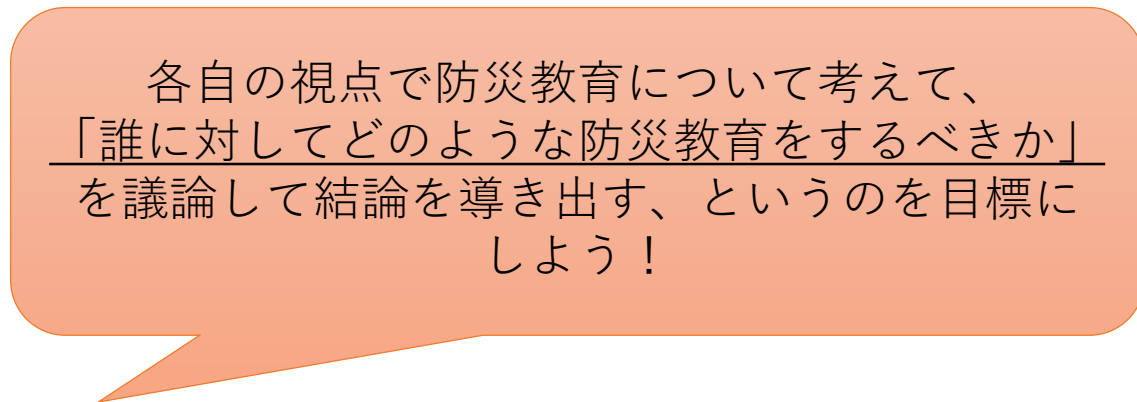
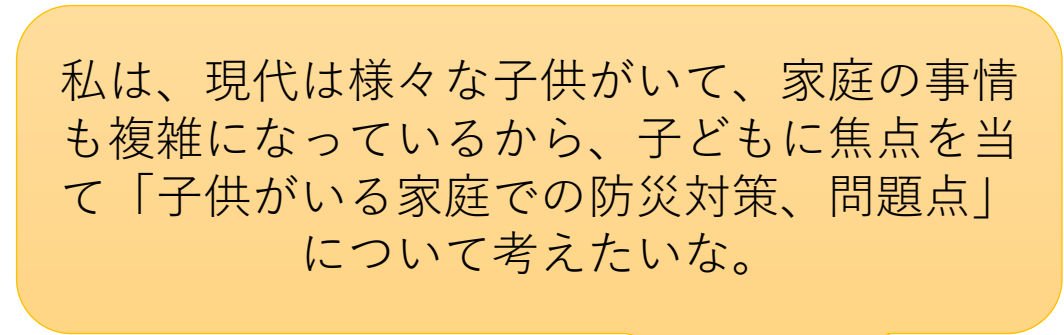
このテーマなら、各自の専門性も生かすことができるね。私は、大学の授業や国試対策で「給食における防災」や「食糧備蓄」について学んだよ。

食品
B

たしかに、そうだね。
それにメンバー3人はだれもこれまで大きな災害による被害に遭ったことがないけれど、自然災害は、今後いつ自分の住んでいる地域で起こってもおかしくないよね。



私も栄養Cさんと同じく食品の分野を専攻しているけれど、
「地域差」について考えたい。
日本全体で少子高齢化が進んでいるけれど、地域によって
住民の特徴や、その他の実態も異なるから、対策方法は
どのように違うのか気になるな。



防災意識の地域差について＜実体験＞

- メンバー三人で話し合いをし、自分たちの体験から各県の防災意識について考えました。
- 国際A（静岡県）：学校での防災教育に加え、地域住民と消火器体験をした。
- 栄養C（愛知県）：小学校で防災給食があった。
- 食品B（岡山県）：授業で洪水ハザードマップの確認をするためにフィールドワークを行った。

静岡県では「自治体」、愛知県は「学校」、岡山県は「教師」単位でそれぞれ防災教育を行っていることが分かりました。

防災意識の地域差について<要因 1 >

- 次に、「<〇〇県>防災教育」でネット検索しました。
- 静岡県は防災教育マニュアルがPDF化され配布されていました。
- 愛知県も防災教育マニュアルがPDF化され閲覧可能でした。
- 岡山県はなんと独自の防災教育マニュアルが公開されていませんでした。

防災教育が岡山県に行き届いていない理由が
行政の防災教育への関心の低さが根底にあると
見て取れました。

出典：静岡県防災教育基本方針 静岡県教育委員会 平成25年2月

<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/todoufukun/data/22shizuoka/22-10/22-10-1.pdf>

出典：あいちの防災教育マニュアル 愛知県 平成29年11月発行

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/hoken-taiiku/0000081100.html>

防災意識の地域差について<要因 2 >

- 災害発生件数が防災意識の地域差の1つの要因では（？）
→自分たちが小学生だったころの地震発生件数について調べました。
- 2004年5月26日～2014年3月13日の地震件数（震度3以上）

1位 福島 804件

15位 静岡 119件

28位 愛知 31件

45位 岡山 11件

参考：震度別地震回数 都道府県データランキング 2014/03/15
https://uub.jp/pdr/47/_p_pdr.cgi?D=q&H=eq&P=2

災害発生件数が防災意識の強さと相関がある
と考えられます。

防災意識の地域差について<まとめ>

- 話し合いで防災教育の地域差を感じられました。特に、静岡県は防災教育が盛んでした。また、防災教育マニュアルが公開されていない岡山県は防災教育への関心が低いことが分かりました。
- 原因として岡山県地震発生件数の少なさが挙げられます。また、静岡県や愛知県はプレートの境界付近に位置し、直近に予想される南海トラフ巨大地震への関心が高まっています。この地震による津波への危機感が岡山では少ないと感じました。

地域間での防災教育格差の是正をするため
に個人個人の防災への関心が必要

「食」の視点で考える防災

次に私は、防災について「食」の観点から考えてみました。

災害に遭った時だけに限らず、生きていくには食事が必要です。そこで、災害時に食事の確保として重要な役割を担う学校給食の備えについて調べました。これは、多くの子供たちが通い、保護者や地域と連携している学校での給食の整備は、地域全体の災害に対する意識向上に繋がると考えたからです。

そこで、まずは「災害時における学校給食実施体制の構築に関する事例集」より、その実態を調べてみました。

「災害時における学校給食実施体制の構築 に関する事例集」では以下のことが報告されています

- 文部科学省の立場

学校給食は、適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図るとともに学校生活を豊かにし、被災した児童生徒が日常の学校生活を取り戻す一助になることから学校給食の早期再開は大切です。このことから、文部科学省では、各都道府県に対し、今後の災害等の不測の事態に備えて、学校給食再開までのバックアップ体制の構築を依頼しています。

- アンケートと作成と調査

この事例集は、各地方公共団体において実施している、災害時における学校給食実施体制の構築について調査・分析を行い作成したものです。調査では、学校給食を実施している公立学校の設置者に対し、災害時における学校給食実施体制の構築等を問うアンケートを実施し、さらに、特徴的な取り組みを行っている自治体については追加ヒアリング調査を行っています。

アンケート結果

災害に備えた学校給食体制の整備の内容は、多い順に

- 1.給食施設の耐震化(87.2%)
- 2.給食施設の防火設備(65.7%)
- 3.非常食の備蓄(50.5%)

民間企業への協力要請・協定締結や災害時のガイドライン・マニュアルの策定を実施している学校は3割にも満たない。

一方、災害時に役立ったもので多かったのは、
非常食の備蓄(42.4%) 給食施設の耐震化(40.9%) 民間企業との協力協定(15.2%)
災害を体験し、事前にしておくとよかった取組で多かったのは、
ガイドライン・マニュアルの策定(42.2%) 備蓄品の確保(39.3%)
という結果でした。

アンケート結果より

アンケート結果から考えた私の意見は以下の通りです。

- ガイドラインの策定や民間企業との協力協定は、必要性があると考えている学校が多いが、実際に行っているところは多くない。
- 備蓄品の確保は、家庭だけでなく学校でも必要性が高い。
- 施設設備の整備はすぐには難しいし、費用がかかる

-
- ・ガイドラインの策定や民間企業との協力協定は、時間はかかるが費用は比較的にかからず、積極的に行うべきなのではないか
 - ・備蓄品の確保は比較的簡単に誰でもできる
(備蓄品に関しては次ページ以降参照)

食料の備蓄について

先ほど、食料の備蓄については比較的簡単に誰でもできると考えました。しかし、農林水産省が国民に推奨している備蓄食料は、**最低3日分をできれば1週間分、家族全員分**です。

これに対してわたしは、

本当に全員が用意することは可能だろうか？

と思いました。



これまで私は、現実的に、自治体が住民全員分の備蓄を用意することは不可能であり、あくまで、「**自守・自助**」の考え方が基本と学んできました。

しかし実際、食物アレルギーにより食べられないものがある人、乳幼児や高齢者、体が不自由な人など、被災地には様々な人がいます。



全ての人が、自分に合った備蓄をすることが大切
地域全体で協力体制を作り、これを可能にすることが望ましい
のではないかと考えました。

私は、食品Bさんと栄養Cさんの話を聞いて、地域で防災訓練を行うのは当たり前ではないということを知りました。私の自治会では、毎年9月に防災訓練を行っています。小学生・中学生は、地域防災訓練に参加し、はんこと自治会長のサインをもらって学校に提出することが決められていました。私が参加する地域防災訓練では、以下のようなことを行っています。

- ・ **水をくみ上げるポンプの使い方** → 大人の人が川から水を引き上げる練習をする。
- ・ **三角巾の使い方** → 教えてもらいながら実際にやる。
- ・ **消火器の使い方** → 全体でやり方を教わってから、子どもから大人まで、
やりたい人が火の絵に向かって当てる練習をする。
- ・ **ふとんと竹の棒を使ったタンカの作り方** → 大人の人が目の前で実践してくれる。
- ・ **みんなで公園まで歩く**
- ・ **賞味期限が近い乾パン or ご飯（自治会で備蓄している）、ジュースをもらう**

実際、防災役員をしている母に話を聞いてみると、私が知らなかった事実が見えてきました。

- ・水上げポンプは蓋をあけるのに力持ちの人が4人必要なほど大変で、緊急時にすぐ使えるのかはわからないこと。

- ・毎年、公園まで歩いていたのは、「避難所まで歩いた」という記録のためであって、それ自体にあまり意味はないこと。

私はよく考えずにみんなの後に続いていたので、今まで疑問に思わなかったのです。また、自治会の仕組みもよくわかっていませんでした。大人に任せきりで、私自身、「防災訓練に参加する」ということが目的になってしまっていたと思います。

家庭で備えておくべきものには、以下のようなものがあります。

- ・食料・飲料 7日分 （そのうち、非常持ち出し用 3日分）
- ・医療品 ・現金、印鑑、通帳、免許証など
- ・衣類 ・ラジオ
- ・懐中電灯、予備の電池
- ・（感染対策）・マスク・ 手袋 ・体温計 ・消毒液など
- ・（乳児）おむつ、粉ミルクなど

※ 持ち出すことを考えて、男性は15kg以下、女性は10kgを目安にまとめると良い。

前のページでは、静岡市のホームページを参考にして家庭で備えておくべきものを書き出しました。富士市のホームページにある富士市防災マップや、イオンに置かれているチラシを確認したところ、基本的な情報は変わりませんが、どこまで詳細に書くかに違いがあるようです。それぞれ欠けている情報を補うことも必要ではないかと思います。

参考：富士市防災マップ 第4版 P25 最新更新日 2021年3月
<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/safety/c0102/fmervo000000nmlx-att/fmervo000000nn9s.pdf>



富士市ホームページ「富士市防災マップについて」より
<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/safety/c0110/fmervo000000n4wn.html>

イオン清水店 食品コーナー

防災グッズ売り場に置かれていたチラシ

(入手日：2021年 9月)

防災チェックリスト 用意ができたなら☑をしましょう。

一般的に必要なもの

避難時に 持ち出すもの	避難生活のために 用意しておくもの
すぐに取り出せる場所に保管することが大切です	最低でも7日分は用意しておきましょう
☐ ラジオ	☐ 飲料水・非常食
☐ 着替え	☐ ティッシュ・トイレトペーパー
☐ 笛(ホイッスル)	☐ 乾電池
☐ くつ・スリッパ	☐ ラップ・アルミホイル
☐ 現金(硬貨も)	☐ 卓上コンロ・ガスボンベ
☐ お薬手帳	
☐ ソーラー手回し充電ライト (携帯充電器付き)	
☐ 保険証や免許証のコピー	
☐ メガネなど、 無いと困るもの	

家族構成に合わせて用意したいもの

女性ならではの 必要なもの	赤ちゃん のいるご家庭	高齢者 のいるご家庭
☐ 肌着(下着)・ カップ付きインナー	☐ おむつ	☐ 常備薬・服用中の薬
☐ 生理用品	☐ おしりふき	☐ 老眼鏡・入れ歯など
☐ 化粧水・乳液など	☐ ミルク・哺乳瓶	☐ 介護用品 (折りたたみ杖など)
☐ 水のいらないシャンプー	☐ おもちゃ・絵本など	☐ 大人用おむつ
☐ 防犯ブザー	☐ 母子健康手帳のコピー	☐ おかゆなど柔らかい非常食

**ペット
のいるご家庭**

☐ 薬などの救急セット	☐ キャリーバッグ(またはクレート)	☐ タオル
☐ 連絡先などが入った首輪 (迷子にならないために)	☐ 靴、もしくはハンカチと ガムテープなど足先を守るもの	☐ リード
	☐ 衛生用品 (トイレシート、臭い防止のピックパック、 男の子ならマーキングガードなど)	☐ 水 (ペットボトルに用意)
		☐ フードの買い置き

私は現在、家族と4人暮らしをしています。

家に備えてあったものは、以下のとおりです。

- ・ 2日間もつかどうかの食料
- ・ 断水時にトイレを流す用の水（ボトル、お風呂場の桶に）
- ・ 飲み水（2L 6本）
- ・ 懐中電灯
- ・ 携帯ラジオ
- ・ 衣服
- ・ 生理用品（外の倉庫）

家庭での備えは、4人分には足りないものでした。母と話してみて、何を備えるべなのか、詳細にはわかっていないこと、家族分を備えておくのは困難であることが原因だと思いました。また、家には非常時持ち出し用の備えはありませんでした。

「自分の家の範囲でどうにかなるかなと思ってる。これは、お母さんの妄想ね。」
という母のことばが、心に残っています。持ち出し用を用意していないのには、避難所に行きたくないという気持ちの表れではないかと感じました。

たしかに、避難所の生活には様々な困難があります。母は特に、避難所ではウイルスの感染リスクが高いことを懸念していました。（コロナだけでなく、ノロウイルスなども含め）避難所では、他の人との共同生活にストレスを感じる人も多いと思います。

東日本大震災の時には、避難所で女性がしきりを求めたのに、「管理が行き届かなくなる」という理由で却下されてしまった、ということもあったそうです。妊婦、乳幼児、外国人、障害者、高齢者など、特別に配慮を必要としている人達もいます。互いにどのような配慮が必要なのか、相手の立場になって考えるべきだと思います。

参考：平田京子（2013年3月）『避難所解説読本』

[hianjyodokuhan.pdf \(jwu.ac.jp\)](https://mcm-www.jwu.ac.jp/~hirata/kenkyuseika/2012hinanjyodokuhan.pdf)



平田研究室－研究成果－避難所解説読本－日本女子大学より

<https://mcm-www.jwu.ac.jp/~hirata/kenkyuseika/2012hinanjyodokuhan.html>

話し合いの内容

食品B：岡山と比べて静岡は自治体での防災訓練があって、防災対策にも地域差が見られたよね。

栄養C：そうだね。各都道府県や自治体が意識を高くもつことが必要だと思う。
具体的な対策としては、個人では家族構成やそれぞれの事情に合わせた備蓄をすること、集団では避難訓練、ガイドラインを作ること、地域・民間の協力が挙げられるね。

国際A：うん。あと、前に私は「ガイドラインの配布」という言い方をしたけど、やっぱり作るだけでなく、確実に届けることも重要だと思う。
自分から見ると人は少ないと思うから。

(話し合いの続き)

栄養C：そうだね。あとは避難所の設備を整えて、乳児を抱えている人や障害者の方も、誰でも避難できる場所をつくることも対策として考えられるかな。

食品B：結局、あまり対策ができていないのは、個々の防災に対する意識の低さが根底にあるよね。個々の意識を高めるのに、教育が効果的だと思う。

国際A：私も今回は、地域の防災訓練は役員の人に任せきりにしていたと反省した。でも総合の学習の時間は生徒が主体だから、自分の地域や家庭の防災について深く考えることができるはず。「防災」をテーマに授業をする意義はある。

食品B：そのための教育をどうするかが、このグループが考える授業の構想だね。

話し合いの結果 〈まとめ〉

●地域差

各都道府県・各自治体が防災意識を高める

●事前の対策

個人→家族構成や各自の事情に合った備蓄

集団→避難訓練 ガイドラインの策定 地域・民間との協力体制

●避難所の充実

妊婦、乳幼児、高齢者、障害者、外国人への配慮

根底には、防災に対する意識の低さがある
個人の意識を高めるには**教育**が最も効果的である



そのための教育はどのようにすればよい？



私たちが考えた『総合的な探求の時間』

対象は高校生です。高校における総合的な探求の時間では生徒自身が社会と関わり合いながら、どう生活していくか考えていくことが重要です。

1. 高校生の総合の時間で防災教育をするにあたって、生徒たち自身が個人個人の防災対策の現状を把握させます。例えば、ネットで住んでいる地域の防災対策が講じられているか調査することや、自分の家の防災グッズについての確認をします。
2. そこで見つけた問題点について、4人ほどのグループで話し合いながら、解決策を考えさせます。
3. 1~2についてクラス内でディスカッションをし、解決策に対しての問題点を挙げるなどし、さらに防災について関心を持たせるようにします。

以上の過程により、表現力、コミュニケーション能力、情報処理能力、防災への関心の向上が期待されます



総合における防災教育の具体例

- 参考となる例として、私たちのグループの内容や発表のために準備してディスカッションをしてきた過程が挙げられます。
 - 前スライドのフローチャートに即したものを実際の高校で行うとなると、
 - 1.ZOOMを利用して他の都道府県と情報を共有し、自分たちの県が置かれている防災意識の問題点を知ります。
 - 2.この問題について解決策を考えます。例えば、地域住民に防災を呼びかけるなど。
 - 3.防災パンフレットを作り、近隣の駅に貼ってもらう。パンフレットという物として防災について考えた証が残る。その後、成果や解決策についてグループごとに発表、問題点をさらに追求していく。
- 1 ～ 3 の過程で高校生の防災に対する関心向上

『総合的な探求の時間』

対象：高校生

地域や自分の家庭の実情を
よく知る



現在の問題点の発見



解決策をグループで話し合いなが
ら考える



将来に活かすことができる

ZOOMなどを用いて他の都道府県
の学校と情報共有する



災害意識が不十分、地理的な違い、
家庭における困難 など



パンフレットを地域住民に配る



防災意識の向上

パンフレットなどものとして残すことが
できる



出典

震度別地震回数 都道府県データランキング 2014/03/15

https://uub.jp/pdr/47/_p_pdr.cgi?D=q&H=eq&P=2

「災害時における学校給食実施体制の構築に関する事例集（令和3年3月）」

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/mext_01332.html

静岡市ホームページ『家庭内での防災対策』 最新更新日 2015/3/26

https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_001447.html

富士市防災マップ 第4版 P25 最新更新日 2021年3月

<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/safety/c0102/fmervo000000nmlx-att/fmervo000000nn9s.pdf>



富士市ホームページ「富士市防災マップについて」より

<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/safety/c0110/fmervo000000n4wn.html>

平田京子（2013年3月）『避難所解説読本』

<hianjyodokuhon.pdf> (jwu.ac.jp)

平田研究室－研究成果－避難所解説読本－日本女子大学より

<https://mcm-www.jwu.ac.jp/~hirata/kenkyuseika/2012hianjyodokuhon.html>

静岡県防災教育基本方針 静岡県教育委員会 平成25年2月

<https://anzenkyouiku.mext.go.jp/todoufukun/data/22shizuoka/22-10/22-10-1.pdf>

あいちの防災教育マニュアル 愛知県 平成29年11月発行

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/hoken-taiiku/0000081100.html>